

会報

年頭所感



会長 福田 洋三

明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり全国高等学校教頭・副校長会の皆様に御挨拶を申し上げます。

昨年は、3年ぶりの全国大会、しかも石川県と全国をオンラインで結ぶ初のハイブリッド開催、各地区研究協議会、全国理事研究協議会の集合開催等本会の活動に御協力を賜り、心から感謝申し上げます。また、全国大会のとき大雨の線状降水帯や台風8号により北日本や北陸に甚大な被害がもたらされた等、様々な災害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、昨年を表す漢字は「戦」でした。2月に始まったロシアのウクライナへの軍事侵攻は、日本国憲法前文「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」に基づき教育を行う立場として痛恨の思いです。一方サッカーワールドカップでは日本代表が強豪国を撃破し、北京オリンピックでは、冬季歴代最多の18個のメダルを獲得する等の熱戦に沸きました。新型コロナウイルス感染症は、なかなか収束しないで年末年始にはオミクロン株BA.5系統からBQ.1.1（ケルベロス株）系統への置き換わり等の第8波も懸念され、引き続き今後が見通しづらい状況の中での年明けとなりました。

さて、本年は、新学習指導要領となってから入学した生徒が高校2年生となり、GIGAスクール構想による1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した授業への改善や観点別評価が本格的に実施される年です。新型コロナウイルス感染症対策によって加速された教育DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル教科書・教材や

令和4年度

NO.114

全国高等学校教頭・副校長会

CBT（コンピュータを用いた試験）、教育ダッシュボード（生徒の出欠や保健等の校務情報と成績やアンケート等の様々な生徒データを集約し、教員や関係者が一覧できる画面や機能）、教育データの活用に加え、統合型校務支援システムのクラウド化でリモートワークもでき効率化を図る次世代の校務デジタル化へ向かっています。教員が自作したテストの採点・集計については解答用紙をスキャナでPDF化して取り込み記号選択式回答は自動採点等採点・集計をデジタル化し、採点誤りの防止と予め設問に設定した観点別評価の観点ごとの得点集計もできるシステムや入学者選抜ではインターネット出願が導入された都県があり、教員の業務負荷を削減しています。働き方改革については昨年実施された勤務実態調査結果を文部科学省が分析し各種取組の効果が検証されます。さらに、公立学校の教員に残業代を認めていない「教員給与特別措置法」の法改正も含む見直しに向け検討を始め、有識者会議を設け論点を整理するそうです。

私は、昨年8月に会長職を再び拝命し、至らないところも多い中、地区研究協議会等に出席やオンライン参加させて頂いたときには、皆様に温かく丁寧な御対応を賜り感謝いたします。私自身、様々な先進的な取組や実践、情報を得ることができ、勤務校に持ち帰り、教員に伝えたりしています。全国大会について、本年は、愛知県刈谷市で集合開催されます。昭和38年創立の本会は、本年創立60周年であり全国大会はその記念大会となります。11月24日には記念式典を実施し、記念誌も発行します。校務御多忙とは存じますが、多数参加の御協力をお願いいたします。

今後とも、教頭・副校長先生の皆様は、御健康に留意され、校長先生の皆様と各教育委員会の皆様には、引き続き御理解と御支援をお願いして、挨拶といたします。

（東京都立大泉桜高等学校 副校長）



新年のご挨拶

全国副会長
宮城県会長
齋藤 英明

明けましておめでとうございます。
令和5年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。
未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症対策等、職員の先頭に立ち、日々の業務に尽力されている教頭・副校長の先生方、お疲れ様でございます。

さて、僭越ながら、4月に宮城県の会長を拝命し、本会副会長を仰せつかり、早9ヶ月となります。その間、全国理事会等の貴重な経験をさせていただき、感謝申し上げます。今年度は、6月と11月は東京で対面形式、8月はオンライン形式で実施された全国規模の会議に参加させていただきました。宮城県の教頭・副校長会で得られた情報を持参し、北は北海道から南は沖縄県までが一堂に会して、情報交換を行い、よりよい学校教育の活性化に向けて考える素晴らしいチャンスを与えていただきました。加えて、文部科学省から講師をお招きし、「観点別評価」や「令和6年度大学入試」について講演を拝聴できたことも、良い刺激として新たなテーマに関する自己研鑽のきっかけや励みとなっております。

令和の日本型学校教育において「全ての子供たちの可能性を引き出す」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が学校現場に求められています。それぞれの都道府県、学校の実情に合わせ、このテーマの実現に向けて、校内一丸となって尽力していくものと思います。教頭・副校長の先生方におかれましては、くれぐれもお身体を大切にされ、今年もますますご活躍されることと推察されます。

最後になりましたが、皆様方にとって、よき一年となることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

(宮城県仙台第一高等学校 教頭)



新年のご挨拶

全国副会長
全国総務部長
山梨県会長
内藤 京

明けましておめでとうございます。
令和5年の年頭にあたり、全国高等学校教頭・副校長会の皆様にご挨拶申し上げます。

はじめに、大きく変化する社会の中ですますます複雑化・多様化する諸課題に対して粘り強く取り組まれ、とりわけ新型コロナウイルス感染症への対応にご尽力されている皆様へ敬意を表するとともに、罹患された皆様、そして後遺症に苦しむ皆様には心からのお見舞いとご回復をお祈り申し上げます。

山梨県会長を拝命し、さらに全国副会長、全国総務部長を仰せつかり、本部役員の皆様をはじめ全国の教頭・副校長先生方には大変お世話になりながら勉強をさせていただいていると同時に、貴重な経験をさせていただいております。

本年度は3年ぶりに全国高等学校教頭・副会長総会及び研究協議大会が、石川県と全国各地をオンラインでつなぐハイブリッド方式で開催されました。開催に向けてご苦労をいただいた河岸大会運営委員長をはじめ、石川県の教頭・副校長先生方には心より感謝申し上げます。これからの中高教育に対してたくさんのご示唆に溢れるご講演や、少人数で協議を深めることができた分科会など、今後の教育活動の更なる充実に向けて、新たな視点や推進していくための勇気をいただきました。

令和の日本型学校教育の充実や、新学習指導要領下での効果的な学習評価の運用、働き方改革の推進などに加え、各都道府県・各学校ごとの課題も山積しているかと存じます。教育は社会の基盤であると同時に、社会を牽引する力です。これまで以上に本会の活動を通して全国の教頭・副校長先生ともつながり、高校教育の発展に努めていく所存であります。

最後になりますが、本会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(山梨県立甲府南高等学校 教頭)



新年のご挨拶

全国副会長
岐阜県会長 笠原 常豊

明けましておめでとうございます。
令和5年の年頭にあたり、全国高等学校教頭・副校長会の皆様にご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染者数の収束がなかなか見えない状況の中、3年ぶりに全国大会が盛大に開催されましたこと、大変喜ばしく思います。ハイブリット形式という新しい方式を創出し、質疑応答ではGoogleのforms利用や、情報交換の協議ではZoomのブレイクアウトルーム活用など、今まで活用したことのない形式を取り入れられるなど、準備も含めて多大なご苦労があったことと想像します。石川県や全国教頭・副校長会事務局の先生方のご努力に深く感謝を申し上げます。

さて、学校現場では、新型コロナウイルス感染症への予防対策は徹底しつつ、できる限り学校行事を実施する対応に変化してきた昨年でした。感染者の増大により生徒が登校できない場面では、生徒一人一台タブレットを利用したオンライン授業で対応するなど、学びを継続させるための有効な方法が普及してきました。

タブレットを利用した学習方法について、岐阜県でも研修会などが実施されてきました。グループでの共同学習や教員と生徒の双方向による学習など、効果が高い活用事例がたくさん紹介されますが、教員間や学校間でタブレットの利用状況に格差があるのが現状です。教材内容を提示することに留まることなく、学習効果を上げられる教材開発に挑戦していくことが今後更に大切になってくると考えています。しかし、個々の教員では負担も多く、教員同士が絶えず協力しようとする雰囲気のある職場にしていくことがとても重要であると感じています。

最後になりますが、本年が皆様にとりましても良き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。

(岐阜県立岐山高等学校 教頭)



新年のご挨拶

全国副会長
福岡県会長 清輔 正孝

明けましておめでとうございます。
令和5年の年頭にあたり、全国高等学校教頭・副校長会の皆様に御挨拶を申し上げます。

新型コロナ感染症の影響は当初の想像を超えて長引いていますが、昨年8月の第2回全国理事研究協議会と第61回全国総会及び研究協議大会はオンラインと対面のハイブリッド形式での開催、6月、12月の第1、3回全国理事研究協議会は感染対策を講じながらの対面形式で開催できました。各県各学校での実践や取組などの情報交換ができ、改めて本会と先生方との繋がりの大切さを感じました。また、各学校におきましても学校行事等例年通りの形ではないにしても、工夫し実施していることだと思います。私も、改めて各行事等における生徒の成長を感じ、その意義を再確認しています。

さて、今「生きる力」を育むという基本理念のもと新しい学習指導要領（平成30年告示）が進められています。各学校では、教育課程を軸に学校教育の改善・充実のため「カリキュラム・マネジメント」を行い、また授業改善や学習評価の改善を推進していることと思います。授業改善や観点別学習評価を進めていくためには、まずは、教師自身が変化する勇気を持ち、学習し成長していく使命感と責任感をもつ事が大切です。どの学校、どの教師にも適用する授業改善のマニュアルはありません。だからこそ、今まで以上に教師一人一人が学習し、各学校の環境、生徒の実態を踏まえ、改善・充実の議論を行い、共有し、日々の教育活動に結び付けていかなければならないと思います。また、教師個人の力中心から組織力として取り組む形に変化していくなければならないと思っています。

最後になりますが、本会のますますの御発展と皆様にとりまして、良き1年となることを御祈念申し上げて御挨拶とさせていただきます。

(福岡県立福岡高等学校 副校長)



第62回愛知大会へのご案内 石川大会に続き、前進する 大会の開催へ！

全國理事
愛知大会準備委員長 岡島 正純
愛知県会長

令和4年度は、石川県におきまして3年ぶりに全国大会が開催されました。徳島大会と沖縄大会が残念ながら中止になって以降、石川県の皆様が様々な事態を想定して念入りに御準備なさったことと存じます。そして、ハイブリッド開催という形で見事に大会を実現されました。また、これまでの中止・縮小への方向ではなく、工夫を凝らして実現に向かう方向に転じましたことを大変嬉しく思っております。

さて、令和5年度は、本県においては40年ぶりに大会を開催する運びとなりました。石川県の皆様のノウハウを大いに参考にさせていただきながら、本県の教頭同士の連携を密にし、心を込めて準備を進めてまいります。

開催日は7月26日（水）～7月28日（金）、会場は刈谷市総合文化センター及び刈谷市産業振興センターです。名古屋駅からJR快速で20分ほどの所にあります。1日目の講演会には、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授の柴田好章氏、2日目は、愛知大学教授の山田邦明氏をお招きします。また、愛知県の高校生等による歓迎公演の準備も進めております。御期待ください。

第62回愛知大会の統一主題は、「持続可能な未来の創り手を育む高校教育の推進～ふるさとの文化・風土に誇りをもち、多様な人々と協働できる人材の育成を目指して～」です。未だ先行きが不透明な時代であるからこそ、皆様との情報交換を通して連携を深めながら、未来を生き抜く子どもたちの育成を図っていきたいという思いから、この統一主題を設定させていただきました。全国の教頭・副校長の先生方におかれましては、ぜひ愛知県にお越しいただき、大会に参加していただくとともに、県内各地に足を運んで本県の自然と文化に触れていただけますと幸いです。皆様の御参加を心からお待ちしております。（愛知県立緑丘高等学校 教頭）



令和4年度研究部報告

全国研究部長
全国常任理事 松井 章朗
東京都全日制部会長

令和4年度の全国研究部会と研究集録第47号の論文選定について報告します。

全国研究部会は、金沢市文化ホールに研究部長、運営委員会（3名）、準備委員会（3名）、事務局長が集合し、Zoomによるオンライン会議で実施しました。会長、各地区研究副部長、研究委員長、事務局次長はオンラインによる参加でした。研究部長の司会のもと、全国大会での研究発表の確認を行いました。『研究集録』の編集、『調査研究集』の編集について説明がありました。本年度の特別調査は岩手県の担当で、「高等学校の特色化・魅力化の推進に向けた学校運営協議会等の組織体制や特徴的な取組状況及び管理運営・校務運営におけるICTの利活用について」について実施方法等の確認、来年度の特別調査担当県（四国地区高知県）の確認を行いました。第3回理事研究協議会講話講師は文部科学省へ依頼することになりました。次に各地区研究副部長から、本年度地区研究協議会の予定・状況の報告がありました。集合開催を予定しているのが5地区ありました。

『研究集録第47号』の編集は、例年ならば夏季休業期間中に本部事務局に、福田洋三会長（東京）、松井章朗研究部長（東京）、森由佳管理運営研究委員長（神奈川）、伊藤茂樹高校教育研究委員長（埼玉）、坂口雄一生徒指導研究委員長（東京）と事務局が集まって会議を開くのですが、日程調整がうまくいかず会議を開催することができませんでした。

そこで、対象となる令和3年度に刊行された各県の会誌、会報、発表資料集、研究年報、研究紀要、研究集録、研究協議会報告等の中の研究発表論文をPDF化し、ホームページよりダウンロードしてもらって、第一次選考として3人の研究委員長にそれぞれ10本を8月末までに選んでもらいました。それらを参考にして各研究委員長が自分の担当分野で3本を選び、10月14日の中間監査・役員会の後、最終確認を行っ

て以下の8本の論文が掲載候補となりました。

1 管理運営研究部門（3本）

- ① 茨城県、令和3年度『会報第49号』から「県立学校における働き方改革の現状と課題～『茨城県県立学校の働き方改革のためのガイドライン』に基づく実施状況調査と分析を通して～」
- ② 愛知県、令和3年度『研究の記録』から「活力ある教頭職を目指して～新しい時代に対応できる教頭職の在り方を求めて～」
- ③ 沖縄県、令和3年度『会誌第55号』から「成年年齢の引き下げに伴う学校の対応について」

2 高校教育研究部門（2本）

- ① 三重県、令和3年度『研究集録第27号』から「ICT教育の現状と今後について～BYODを視野に入れて～」
- ② 兵庫県、令和3年度『研究集録第65集』から「学校におけるBYOD～導入から運用に至る必要な対策・課題～」

3 生徒指導研究部門（3本）

- ① 秋田県、令和3年度『会報第44号』から「校則の見直しについて」
- ② 神奈川県、令和3年度『研究集録（定通制）第49号』「外国につながりのある生徒へのキャリア支援について～コロナ下における、外国につながりのある生徒の進路の現状と各校のキャリア教育～」
- ③ 静岡県、令和3年度『秋季研究協議会研究発表資料集』から「困難を抱える生徒への対応：現状分析と提案」

これらは、『研究集録』第47号に収録されました。

最後になりましたが、新型コロナ感染症拡大がなかなか終息しない状況だからこそ、全国の教頭・副校長が直面した課題と解決策を記録し、情報共有し、生徒・保護者のために最善を尽くさなければなりません。新学習指導要領の全面実施の中で研究を重ねてこられた研究委員等の皆様に敬意を表すとともに、来年度は、第62回研究協議大会を集合開催で実現し、全国の教頭、副校長が一堂に会して、研究発表が行えることを心から祈念しております。

（東京都立日野台高等学校 副校長）

地区研究協議会報告



北海道地区

全国常任理事
研究副部長 大谷 健介
北海道会長

北海道では5月25、26日に総会・第1回研究協議会、11月11日に第2回研究協議会をいずれも250名以上の会員の参加により、3年ぶりに集合形式で開催することができました。今年は感染症禍前と同様のプログラム開催することとしました。ここでは2回の研究協議会について報告します。

○総会・第1回研究協議会

全体会では北海道教育庁石狩教育局主幹から「教頭・副校長に期待すること」と題してキャリア教育、STEAM教育や地学協働活動推進事業等、北海道が進める事業の重要性を説くとともに、自身の経験から「校長が見えている景色を教員にも見せること」や「深層意識への刷り込み」を意識することで円滑な人間関係になるという講話をいただきました。また、校長協会会长からは「マネジメントこそすべて」と題してこれまでの勤務校での経験や学びを通じて気持ちが前向きになる方法を持っているか、心身の健康のためにやっていることはあるか、座右の銘は何かなどを問い合わせながら、教頭・副校長としてのきがまえについて講話していただきました。また、研究発表では道立学校唯一の中高一貫校である登別明日中等教育学校の竹見教頭による実践発表を行いました。SGHや地域協働事業の研究指定を活用したこれまでの先進的な取組や、新たな課題を抱えながら次の15年を見据える、「セカンド・ステージ開拓」に向けた取組について詳細に発表してくださいました。

分科会では、第1分科会（管理運営）で岩見沢東高校の杉本教頭から「岩見沢市内高等学校4校の連携による小・中学校への説明会の実施について」市内の中学生が札幌近郊の高校に、またもっと早い段階で小学生が中高一貫校へ流出している厳しい現状を打破するための合同説明開催等の取組について、第2分科会（教育課程・学習指導）では厚真高校の佐々木教頭から「地域と連携・高校生活の魅力化～ちいさくて

あったかい厚真高校」として、近隣の苫小牧市からの生徒が多数を占め、地元からの入学者が減少している状況の改善のために、町にある産業を活用したキャリア学習や公営塾の開設などの実践と課題について、第3分科会（生徒指導・進路指導・特別活動）では、遠軽高校の森教頭から「地域に根ざした魅力的な学校を目指して」地域資源を活用したキャリア教育と生徒募集の取組についての発表がありました。いずれの発表も著しい少子化による生徒確保を目指す内容でした。また、第3分科会では道立通信制唯一の有朋高校からの発表がありました。いずれの分科会もこれらの研究発表をもとにこれから北海道の高校教育についてグループワークを活用しながら協議を深めました。

○第2回研究協議会

午前の部では日本クレーム協会代表理事の谷厚志様による「学校への不満や要望を笑顔に変える」と題してクレームへの恐怖心をなくすこととクレーム対応の3ステップを覚えることを主眼として講演をいただきました。外部からのクレームは学校へのアドバイスであると言う意識を持つこと、そのためにクレームを全身で受け止める姿勢を持つこと、また相手への共感を示す言葉やメモを取ることの大切さ等、苦情対応の基本をお話いただきました。学校での事例についても数多く紹介していただき、負のイメージが強い題材を大変フランクに、そして要所を押された講演で大変勉強になりました。

午後の部では「令和の日本型学校教育の構築に向けて」をテーマとして北海道教育大学大学院の姫野完治教授による講演と助言を賜りました。講演の冒頭では「覚える」「理解する」「まねる」など20のキーワードから「みなさんの考える『学ぶ』とは?」と言う会場への問い合わせに対し、教科の特性や経験校などから一人一人の捉え方が違い、さまざまな考えがあることに気づかされました。本題では、「令和の日本型学校教育」についてわかりやすくポイントをまとめて説明していただくとともに、この言葉が学習指導要領の提示後に間もなく出てきた意味についても解説していただきました。また、現代における日本と外国の教育への考え方や変化の違いについてもお話をいただきました。講演後の会員によるグループワークではICTを活用してリアルタイムに各グループの声を端末に入力してもらい、それらを次々と大型スクリー

ンに映し出すという新たな方法を試行して、協議内容を深めるとともに、それに基づいて姫野教授に助言をいたくことでより充実した研究協議にすることができました。次年度以降、この形を評価してさらに発展した協議ができるように計画を進めていきたいと考えています。

2回の研究協議会がともに対面で開催でき、オンラインでは得ることのできない貴重な時間を過ごすことができました。多忙な日常から離れて足元を見つめ直す研修機会を得ることは会員全員にとって大変重要であり、あわせてリフレッシュできる良い機会となったことと思います。この2年間で会員の顔ぶれが大きく変わる中、運営側の役員を含めて研究協議会を従前の形で開催することができ、次年度からさらにステップアップするための素地ができました。これからも北海道の教育の充実・発展のため尽力していきたいと思います。

(北海道札幌西高等学校 副校長)



東北地区

全国常任理事
研究副部長 岩川 克敏
秋田県会長

第38回東北六県高等学校教頭・副校長会研究協議大会は、10月21日に秋田市のカレッジプラザにおいて秋田県の教頭・副校長は対面方式にて、また、東北各県の教頭・副校長はオンライン方式にて参加する方法で実施しました。

安田浩幸秋田県教育委員会教育長、柘植敏朗秋田県高等学校校長協会会长にはご出席の上ご祝辞をいただきました。福田洋三全国高等学校教頭・副校長会会长には、ご祝辞を頂戴し代読させていただきました。

東北地区のこの大会は、2年連続で中止を余儀なくされましたが、3年目の今年は大会運営に係る財務的な課題の克服も含めて、いかなる状況になっても実施できるあり方として、このような形で開催しました。研究発表は、大会集録にて共有する形を取り、秋田大会は記念講演をその柱としました。

記念講演は、「アーツ＆ルーツと文化創造」と題して、秋田公立美術大学教授の藤浩志氏よ

り講演いただきました。藤先生は、青森県の十和田現代美術館館長をされた後、現在は、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科・美術学部アーツ＆ルーツ専攻にて教授、秋田市文化創造館館長などを務められています。

『未来は見えない。過去は目の前に見えて広がってくる。自分の関心・興味にしたがって日常を丁寧に観察し、記録していくことにより、自分の過去をしっかりと作ることができる。現在の自分の周辺の環境を観察することで生まれてくるモヤモヤ感、違和感、それらに向かい合いその正体を形にしようとしていること、それが表現につながり、自分の現在を作ることになる。未来をつくることはできない。今を作るのである。ただ一つ、未来をつくる方法がある。それは予定を入れることである。』という藤先生の講演には、たくさんの参加者が日々の仕事を遂行する上で新たな視点を得たとアンケートに答えていました。以下は、その一部です。

☆ 印象深い言葉がたくさんありました。なによりも「未来はわからない。過去を見ながら後ろ向きに歩いている」という言葉です。このフレーズはネガティブなものでは全くないこともしっかり伝わりました。「関心・興味によってしか観察できない」などの言葉からは、イギリスの歴史家E.H.カーの「歴史とは現在と過去との対話である。」という言葉を思い出しながら聴きました。日常を見直す新たな視点をもらいました。とてもよかったです。

☆ 教員として、人として、色々考えさせられる内容で、大変興味深い講演でした。子どもに接する中で、一見意味がありそうに見えて、実は子どもの心に響かない言葉を大人がたくさん発しているかもしれませんと考えさせられました。過去、現在、未来の捉え方など、多くの生徒及び先生方に聞いてほしい内容ばかりでした。本当にありがとうございました。

☆ 「後ろ向きに歩いている」ということに納得させられました。見えない未来に向かって歩いて行くことは勇気のいることではあるが、過去に学んで一步ずつ足下を確かめながら歩いていけばいいと思いました。機会があれば生徒に一步を踏み出させるために話してみたいと思いました。

発表が予定されていた各県からの研究は誌上発表とし、『大会集録』という形で共有することとしました。研究発表は以下の通りです。

I 管理運営部門

- (1) 「高等学校の特色化・魅力化の推進に向けた学校運営協議会等の組織体制や特徴的な取組状況及び管理運営・校務運営におけるICTの利活用について」

岩手県高等学校副校長協議会
奥州支会

- (2) 「管理職の男女共同参画に向けて」

福島県立いわき総合高等学校
教頭 板倉 誠実

II 高校教育部門

- (1) 「『カリキュラム・マネジメント』の3側面に係る実態調査」

秋田県立大曲農業高等学校
教頭 伊藤 哲

- (2) 「通信制課程における『学び直し』に向けた学校設定科目の取り組みについて」

山形県立庄内総合高等学校Ⅲ部通信制
教頭 池田 貴之

III 生徒指導部門

- (1) 「59th『壮士凌雲』～未来は今日始まる～地域に愛される学校づくり」

青森県立三沢商業高等学校
教頭 中村 至

- (2) 「学校外学修を軸とした本校の生徒指導」

宮城県石巻北高等学校飯野川校
副校長 田渕 龍二

次期開催県である渡部和行山形県教頭・副校長会会長からも当日、ご挨拶を頂戴いたしました。山形県で開催される第39回東北六県高等学校教頭・副校長会研究協議大会は、令和5年10月12日（木）および13日（金）の2日間で、山形市のJR山形駅西口徒歩5分にあります「山形テルサホール」にて開催を予定されています。対面形式での開催が実現すれば、4年ぶりということになります。夜の教育懇談会は見送ることですが、多くの会員が「芋煮と酒のおいしい山形」へ行けることを祈念しております。（秋田県立秋田明徳館高等学校 副校長）





関東地区

全国常任理事
研究副部長 武藤 秀之
茨城県会長

令和4年度関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会千葉大会

期日：令和4年11月4日（金）

会場：千葉県千葉市ホテルポートプラザちばロイヤル

主管：千葉県高等学校教頭・副校長協会

参加者：159名

テーマ：「郷土に誇りを持ち、自らの手で未来を切り拓き、世界とつながる人材の育成」

開会式では、全国高等学校教頭・副校長会事務局長 針馬利行様、千葉県教育庁教育振興部学習指導課長 石川康浩様、千葉県高等学校協会会长千葉県立東葛飾高等学校長 篠木賢正様にご出席を賜りご挨拶をいただきました。

講演会では、千葉商科大学国際教養学部教授宮崎緑様をお招きして、「地球市民を育てる」と題し講演をいただきました。現代の国際社会情勢の分析をいただきタイムリーな話題を具体的に説明いただきました。そして、先生が大学で取り組まれている国際教育の内容について説明をいただきました。今回のテーマである「自らの手で未来を切り拓き、世界とつながる人材の育成」を実現するために、どのような教育が必要か、教育の現場では何をすべきかを改めて考えることができました。

午後の研究協議では、4県からの発表があり、その発表に対するご指導ご助言を、千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼高等学校指導室長 中村孝幸様、千葉県高等学校協会副会長千葉県立幕張総合高等学校長 横瀬正史様よりいただきました。

それぞれの研究発表の内容は以下のとおりです。

○授業観察を通した人材育成と授業改善

神奈川県立秦野曾屋高等学校副校長 高橋正広 教員の「思考力・判断力・表現力」を育成するため、管理職がどのように「後押し」するか、副校長が授業を「取材」しホームページで紹介、可能であれば生徒の成果物を掲載するなどの活動を発表されました。また「取材」を受けた教

員が教える側となり校内のOJTが活性化するなどの効果があるとのことです。

1 秦野曾屋高校について

2 授業観察と助言

3 学校ホームページでの授業の取組紹介

4 教員同士のOJTの促進

5 令和4年度公開研究授業について

○地域とともにある学校づくりの取組について

山梨県立身延高等学校教頭 大久保雅司

普通科を基軸とした進学型総合学科、連携型中高一貫教育、コミュニティ・スクールとしての活動を発表されました。様々なところで組織的に地域連携を行い、地域とともにある学校づくりが推進されていることが紹介されました。計画立案は「連携部」が行い、全職員で事業分担しているとのことです。

1 本校の概要

2 連携型中高一貫教育における取組について

3 高大連携（地域連携）における取組について（山梨県立大学との連携事業）

4 コミュニティ・スクールとしての取組について

5 まとめ

○県立学校における働き方改革の現状と課題～「茨城県立学校の働き方改革のためのガイドライン」に基づく実施状況調査と分析を通して～

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校教頭 高野光章

茨城県高等学校教頭・副校長会財務・厚生委員会の調査報告をもとにした発表です。27校のアンケート結果を詳細に分析されたうえで、働き方改革には内発的・内在的変化をひきおこしていくことが肝要とまとめられました。

1 研究の視点と方法

2 アンケート調査の内容及び集計結果・分析

3 終わりに

○人材育成と働き方改革～生徒と教員がともに育つ魅力ある学校を目指して～

千葉県立船橋高等学校教頭 山田裕二

3年間にわたる千葉県高等学校教頭・副校長協会学校運営部会の研究活動成果を発表されました。専門家の講演をもとにした班別協議を実施し、アンケート調査を実施し詳細に分析し、その上でレポートを作成されました。まとめでは、中堅育成の重要性、校務ICT化などが有効とされ、これまでの「学校運営のための人材」から「人材育成のための学校運営」への転換を図る学校運営体制整備が必要と発表されました。

た。

1はじめに

2研究方法

3研究の内容 (1)人材育成について

(2)働き方改革について

4まとめ

閉会式では、令和5年度関東地区研究協議会開催の埼玉県から挨拶がありました。

3年ぶりに対面開催されましたが、各県の研究成果発表を直接聞くことにより取組への思いを感じることができ、充実した研修となりました。主管されました千葉県の先生方にお礼申し上げ報告とします。

(茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 副校長)



東京地区

全国常任理事

松井 章朗

全日制部会長

令和4年度東京都立高等学校副校長研究協議会は誌上開催となりました。

今年度より、協議・意見交換の充実を図るために、分科会発表を各研究部会1主題の発表とすることとしました。そして統一主題も東京都教育大綱の改定に伴い『東京型教育モデルによる新たな高等学校教育の実践』と変更し、9月22日に“ルネコだいら”(小平市)で集合開催する予定でおりました。しかしながら、教育庁指導部高等学校教育指導課と協議した結果、新型コロナウィルス感染拡大のリスクを避けるため、8月18日に誌上開催とすることを決定しました。発表資料等の公表は2学期末までに東京都教育委員会都立学校総合掲示板にアップロードする予定です。

分科会報告は以下のとおりです。

○第一分科会(管理運営)：「働き方改革の取組」

中部A地区 杉並総合高校 宮路みち子

○第二分科会(高校教育)：「新教育課程実施初年度における都立高等学校(全日制)と都立中等教育学校の取組状況について」

西部A地区 永山高校 原田柊太

○第三分科会(生徒指導)：「コロナの感染拡大で起こった高等学校の就職指導について」

東部C地区 芝商業高校 智片将也

○第四分科会(定通制)：「定時制・通信制における新学習指導要領実施から見えてきた課題及び副校長の役割について」

中部地区 松原高校 佐藤謙吾

園芸高校 安井弘明

令和2年、3年と続けて分科会発表を中止し研究活動が停滞しておりましたが、今年度はコロナ禍の中でも研究活動を再開しました。一方で、発表・協議・意見交換・指導講評などの分科会進行に係るノウハウの伝承という面で課題が残りました。令和5年度は通常に開催が出来るようマニュアルを整理してまいります。

(東京都立日野台高等学校 副校長)



北信越地区

全国常任理事

研究副部長 河岸 美穂

石川県会長

第61回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会は、北信越高等学校教頭・副校長会研究協議大会を兼ねて、石川県が主管県となり、8月3～5日に開催しました。コロナ禍の中、直前での大会中止を避けながらも、内容の充実を図りたいと考え、全国の皆様はオンラインで、石川県の会員は会場の金沢市文化ホールに参集するハイブリッド形式で実施させていただきました。

全国から432名の皆様が参加してください、【「未来を拓く心豊かな人づくりに向けた高校教育の推進」～社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、自らの人生を切り拓いていく人材の育成～】を、統一主題として全体会と分科会が行われ、盛会のうちに3日間を終えることができました。

分科会では石川県が北信越地区の研究発表を担当しました。小松明峰高校「円滑な学校経営とは～学校の特色を踏まえて～」、金沢錦丘高校「『探究』の再編を通して推進するカリキュラムマネジメントの試み～学校全体を巻き込むための本校での実践を例に～」、田鶴浜高校「コミュニケーション能力を高める取り組みの成果と課題」の3件の発表でした。学校運営の中で課題を提起し、全国の皆様と協議させていただく有意義な機会となりました。

全国大会の様子や研究協議会の内容を11月30日発行の「総会及び研究協議大会集録」に掲載させていただきました。大会集録につきましても、多くの方のご協力を頂戴して刊行することができました。講師の方の講義や講演、各分科会で研究発表してくださった方の成果や指導助言等をご覧いただき、今後の学校運営や課題改善の一助にしていただけたら幸いです。

来年度の北信越地区の研究協議大会は福井県が担当し、11月16日(木)と17日(金)の2日間、福井市での開催が予定されています。石川大会でお会いできなかった「想い」を、次の「北信越大会(福井県)」につなぎたいと思います。来年度こそは、新型コロナウイルス感染が収束し、様々な活動・交流が以前のような形式で実施できることを願っております。

最後に、あらためまして、石川大会運営委員会に対するこれまでのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(石川県立金沢泉丘高等学校 副校長)



東海地区

全国常任理事
研究副部長 石村 俊樹
静岡県会長

東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会は令和4年10月21日にホテルクラウンパレス浜松(静岡県浜松市)で、令和4年度の総会及び研究協議会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、過去2年の総会は書面決議、研究協議会は誌上発表でしたが、3年ぶりの集合開催で、東海地区4県1市の会員184人が参加しました。

○開会式

御来賓として静岡県教育委員会教育長池上重弘様、静岡県高等学校長協会会长小関雅司様、全国高等学校教頭・副校長会会长福田洋三様の御臨席を賜り、祝辞をいただきました。

○総会

令和3年度事業報告、決算報告・監査報告、令和4年度役員等組織案、事業計画案、予算案の提案があり承認されました。

○研究協議

名古屋市は隔年の研究発表という申し合わせ

から、令和4年度は各県代表4つの研究発表が行われました。

【研究協議1】

「未来を切り開く力をはぐくむ教育～生徒が幸せな人生を歩むことを目指してトータルな人間力を育成する～」

岐阜県立恵那高等学校教頭 高橋廣和

地域の少子化を受け、学校の強みを生かした「探究」を通して生徒を育成する「探究」の推進、地元出身の教員の育成等を含めた地域社会人の育成、恵那田舎塾や恵那地球塾等の課外事業の展開などの改革が紹介されました。この改革の取組は、若者には変化の激しい社会に適応し、新しいものを創造する力が必要とされ、そのためには在学中に「いかに生徒をやる気にさせるか。いかに主体的に学ぶ態度を育むか。」が重要であり、社会で貢献する若者をいかに育てるかを大切にしていることが報告されました。

【研究協議2】

「三重県立学校におけるICT活用の現状と課題について」

三重県立尾鷲高等学校教頭 福田英成

県教育委員会で統一的に進められていることと各校で進められていることを整理し、情報交換することで、各校のICT教育の発展の一助とする観点からの研究が報告されました。県立学校を対象としたアンケートの分析や教科等でのICT活用事例の他、県教育委員会の調査からICT活用のメリットなどの紹介がありました。総括の中で、各校の力量を底上げしつつ、教育活動や校務運営でのICT活用の進展を契機に、各校の特色化につながる取組が生まれることに期待するとの言及がありました。

【研究協議3】

「地域・他者そして自分とつながる－ICTの力を生かした主体性の育成－」

愛知県立犬山南高等学校教頭 田中幸雄
教頭 折笠安秀

一人一台配付されたタブレットを生かし、生徒の自己肯定感を高め、地域や他者への貢献を目指し、主体性を図ることを踏まえ、各教科・各学年・各分掌・現職研修の取組に加え、eスポーツ研究会による活動が紹介されました。結果および考察・まとめでは、多くの教員がトライ＆エラーを繰り返しながら授業改善に努めつつ、併せてスキルアップも欠かせないことや、生徒のICT活用のスピードは速く、活動の反省や課

題は次の成功につながり、生徒主体の活動を一層推進していくことが報告されました。

【研究協議4】

「超過勤務の業務内容の把握と対応について～勤務時間管理システムをもとにした分析～」

静岡県立島田高等学校教頭 大村正己

静岡県立島田商業高等学校教頭 中村洋一

「勤務時間管理システム」を活用し、組織改革を中心とした人的管理、業務改善を中心とした仕事の管理など、学校組織を適切にマネジメントすることで多忙化解消を図ることを研究の目的とし、アンケート結果から個々の業務量ポイントを算出し、これをもとに校務や超過勤務時間数の関連について報告されました。この調査結果を踏まえ、校内の組織づくり、業務の細分化、働き方改革を踏まえた教育活動づくりなど働き方改革を推進するうえで、管理職としてマネジメントできることの提言がされました。

○指導講評

研究発表後、静岡県教育委員会高校教育課指導監井島秀樹様から指導講評をいただきました。各研究のキーワードとして「全職員での取組」「目標を共有する互恵関係」「意見交換ができる協働的な学び」「トライ＆エラーによる授業改善」などを取り上げ、その考え方や取組の有用性に触れながら総括していただき、会員は研究内容の理解を更に深めることができました。

教育課題が山積する中、新しい時代に求められる人材の育成や、ICTの活用、喫緊の課題である働き方改革に向けた取組及び成果と課題の報告は、今後の各校の教育活動に大いに示唆を与える内容でした。東海地区の高等学校教育の振興、発展に寄与し、研究・研修を通して副校長・教頭としての資質の向上を図る目的に資した一日となりました。

(静岡県立静岡高等学校 副校長)



近畿地区

全国常任理事
研究副部長 島岡 律子
大阪府会長

近畿地区連絡協議会は、令和4年11月11日（金）和歌山県が主管県となり、会場のホテルアバローム紀の国と近畿地区をオンライン

でつなぐハイブリッド形式での開催となりました。

開式に先立ち、「近畿地区連絡協議会理事会」が開催され、協議会の申し合わせ事項の確認、令和6年度開催の第63回全国滋賀大会での研究発表府県が決定されました。

令和6年度全国大会研究発表府県は次のとおりです。

第1分科会（管理運営）滋賀県

第2分科会（高校教育）大阪府

第3分科会（生徒指導）奈良県

また、令和5年度の近畿地区連絡協議会は大阪府を主管とし、令和5年10月27日（金）ホテルアヴィーナ大阪で開催することが確認されました。

開会行事では、和歌山県教育委員会学校教育局川嶋秀則局長、和歌山県高等学校校長会松本泰幸副会長、全国高等学校教頭・副校長会福田洋三会長からご祝辞をいただきました。

その後、「宇宙観光時代の宇宙教育」と題し、和歌山大学観光学部長・和歌山大学観光学部 尾久土 正己 教授からの記念講演がありました。尾久土教授の研究テーマは、宇宙観光とヴァーチャル観光で、近年のアストロツーリズム（天文観光）のキーワードは「Dark Sky」、望遠鏡で覗く宇宙ではなく、真っ暗な夜空だそうです。世界ダークスカイ協会の星空特区という認証制度により認定された地区的紹介や、持続可能な観光開発を目的とした与論町と和歌山大学との連携についてもご教授いただきました。持続可能な観光地であるためには、環境・経済・社会のバランスが大切で、与論町では、星空ガイドを地元の方が担えるように「星のソムリエ講座」を開設したり、街灯を取替えたりと、様々な取組が行われています。宇宙教育による、探究学習や地域連携の可能性の広がりに、ワクワクする心待ちとなるご講演でございました。

研究協議では、各府県から次の発表がありました。

①大阪府「学校公式TwitterとSNS活用の取組みについて」

大阪府立港南造形高等学校教頭 今西良介
学校公式Twitterを広報ツール・緊急連絡ツールとして活用している取組や活用にあたっての注意事項などを具体的にご報告いただきました。広報ツールとしてTwitterを活用後、地域の学校説明会や中学校への広報を目的とした訪

問を取りやめ、業務のスリム化も図ることができたということで、各校に共通する業務改善という課題へのヒントにもなるご報告でした。

②滋賀県「高等学校産業人材育成プロジェクト事業における取組」

滋賀県立甲南高等学校教頭 大前慶和

生物と環境・バイオとかがく・食と健康・福祉と保育の4つの系列の特色をいかした取組、「高等学校産業人材育成プロジェクト事業」を活用した地域や企業との連携、滋賀県立信楽高等学校、滋賀県立八幡商業高等学校との学校間連携、系列間連携など学校による連携など、さまざまな連携のあり方をご報告いただきました。

③京都府「嵯峨野高校のBYODの取組について」

京都府立嵯峨野高等学校副校長 園山博

令和3年度にICT戦略会議を設置し、令和4年度はICT担当分掌を創立、使用アプリの選定や生徒活用のルールづくり、教員の技術向上に向けた支援など、ICT機器の活用について、学校としての組織的な取組のあり方を具体的にご報告いただきました。

④兵庫県「自らの将来に対するイメージの擁立に向けて」～生徒の意識調査より～

兵庫県立氷上西高等学校教頭 西本慶輔

兵庫県立有馬高等学校教頭 坂本多津子

学校生活全般について、丹有地区全日制高等学校2年生各校2クラス抽出による平成22年からの隔年調査により、長期間にわたる生徒の意識変化を数値化し、考察する貴重な取組をご報告いただきました。

⑤奈良県「観点別評価に関する取組」

奈良県立奈良高等学校教頭 嶋岡浩三

令和3年8月、観点別評価本格実施の前に、各校の体制づくりの参考になることを目的に、奈良県立高等学校教頭協議会研修委員会により実施された調査研究をご報告いただきました。現状の把握や課題等を共有し、新しい課題に教頭会で取組む試みは大変参考になりました。

⑥和歌山県（誌上発表）

「自ら学び鍛える那高生」「地域に貢献する那高生」教育目標の実現に向けて

和歌山県立那賀高等学校教頭 坂上裕昭

メタ認知力を高め、積極的な社会参加の仕方を学ぶ「総合的な探究の時間」の3年間のプログラムについてご報告いただきました。

最後に、和歌山県教育委員会県立学校教育課

深野泰宏課長、和歌山県高等学校長会長松本泰幸副会長から指導助言をいただきました。

閉会行事では、来年度の協議会開催県の大坂府公立学校教頭会からご挨拶をさせていただき、協議会を終了いたしました。

(大阪府立大塚高等学校 教頭)

中国地区



全国常任理事
研究副部長 三谷 徳彦
鳥取県会長

中国地区では、研究協議会を隔年で開催している。開催しない年については、次年度の研究協議会の開催県において、12月に中国五県代表会議を開催しており、今年度は12月19日(月)に広島市において実施する。

ここ2年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により代表会議を中止し、電子メールによる連絡や意見交換を行い、研究協議会の実施について協議してきたが、令和3年度の米子大会(鳥取県)は中止となり誌上発表となった。令和5年度は広島県公立高等学校教頭会が主管し、4年ぶりに研究協議会を集合型で開催することを予定している。開催の日程は次のとおりである。

□開催期日

令和5年8月21日(月)～22日(火)

□会場

広島YMCA国際文化センター(広島市)

□日程

第1日(8月21日)

- ・開会行事
- ・記念講演
- ・研究発表1
- ・協議題提案1

第2日(8月22日)

- ・研究発表2
- ・協議題提案2
- ・情報交換会
- ・閉会行事

□記念講演

- ・講師(未定)※現在検討中
- ・演題(未定)

□研究協議

- ・第1分科会(学校運営上の諸問題)
研究発表 島根県・広島県
協議題提案 岡山県・山口県
- ・第2分科会(学習指導に関する諸問題)

研究発表 岡山県・山口県
 協議題提案 鳥取県・広島県
 ・第3分科会(生徒指導に関する諸問題)
 研究発表 鳥取県・広島県
 協議題提案 島根県・山口県

今回の研究協議会は、教頭・副校長の業務改善の観点から、従来の1日半の開催から、第1日を午後、第2日を午前のみで開催する予定である。教育懇話会が実施されないため、意見交換会を研究協議会に組み込み、開催時間は短くなつたが、密度の濃い内容となるよう代表者会議では協議することとしている。

教育環境の急激な変化や新たに検討すべき課題など、教頭・副校長が対応する範囲は拡大傾向にある。全国そして中国五県研究協議会への参加は、協議しながら他県の動向を学ぶことにより、資質の向上と自校の教育に還元する貴重な機会となる。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、来年8月には広島市で研究協議会が開催でき、中国五県から多くの教頭・副校長の方々にご参加いただけることを心から願っている。
 (鳥取県立倉吉東高等学校 副校長)



四国地区

全国常任理事
 研究副部長 豊田 聖司
 徳島県会長

四国地区は、令和4年10月27日(木)～28日(金)の日程で、ザ・グランドパレスを会場に「夢とこころざしをもって、未来を切り拓く人づくり」を研究主題として3年ぶりの研究協議会の開催を目指して準備を行つてまいりましたが、7月中旬から四国4県の感染者数が毎日最大を更新を続ける状況の中、徳島県の副会長及び理事と協議を行い、8月5日(金)に現地開催の中止と誌上発表への変更を決定しました。その後、四国3県の会長に報告した後、8月17日(水)に会員の皆様方へ通知を行いました。そして、四国4県8名の教頭先生から提出していただいた発表原稿を発表資料集としてとりまとめ、11月7日(月)に四国4県のすべての教頭・副校長先生に送付いたしました。

四国4県の発表は次のとおりです。

※テーマは主題のみ

【香川県】

「高校の魅力化と人材育成の取組」

香川県立石田高等学校教頭 水田勝公
 「自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人の育成を目指して」

香川県立小豆島高等学校教頭 中井亮子

【愛媛県】

「高校の魅力化と地域等との連携に関する取組について」

愛媛県立小松高等学校教頭 久門久美
 「グローバル社会を生き抜くための確かな学力の向上と豊かな心の育成」

愛媛県立松山南高等学校教頭 近澤幸司

【高知県】

「城山高等学校における通級による指導について」

高知県立城山高等学校教頭 山中史裕
 『高校教育』高岡高等学校の現状と課題

高知県立高岡高等学校教頭 石本仙人

【徳島県】

「松高『未来のためのまなびのプロジェクト』を通じたスクール・ミッション達成のための取り組み」

徳島県立小松島高等学校教頭 牧野浩章
 「ふるさと協働による専門的な人材の育成」

徳島県立つるぎ高等学校教頭 庄野宗之
 以上、各県から2名の教頭先生に誌上発表をいただきました。

発表資料集を通して、四国4県では生徒数の減少そのものが大きな重荷となり、特に小・中規模校ではその生き残りをかけて、地域との連携や新たな専門コース(科)の開設、きめ細やかな個別指導等で学校の特色を打ち出し、魅力ある学校づくりを実現していることを強く感じました。

最後になりましたが、現地開催できなかったことはとても残念でしたが、四国4県のすべての教頭・副校長先生に発表資料集を送付できることで各校の参考資料として活用いただけるのではないか感じています。

発表いただいた教頭先生方、大変お世話になりました。
 (徳島県立徳島北高等学校 教頭)



九州地区

全国常任理事
研究副部長 西中間 明弘
鹿児島県会長

長期にわたる新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「九州各県高等学校教頭・副校長研修会」は、令和2年度の宮崎大会、令和3年度の沖縄大会と2年連続で中止を余儀なくされていました。

今年度も第7波収束の見通しが立たない状況ではありました。令和4年10月6日(木)～7日(金)に、九州各県の熱男・熱女150人が鹿児島市の鹿児島中央タワーLi-Ka 19・20南国ホールに一堂に会し、3年ぶりの研修会「第40回鹿児島大会」を無事、対面の形で開催することができました。

大会初日の午前中に九州各県代表者会議を開催し、午後は全体講演に続き4県の代表者による研究実践発表を行いました。2日目には「新教育課程への取組状況と課題」をテーマに九州8県の代表者から各県の取組についての報告がなされました。以下が全体講演と発表テーマ及び発表者になります。

[全体講演]

演題「多メディア時代の地域ジャーナリズム」
(株)南日本放送専務取締役 丸山健太郎氏
[研究・実践発表]

①「唯一無二の誇り高き学校づくりに向けた取組」

佐賀県立致遠館高等学校教頭 馬場伸高
②「地方行政×企業×県教委×学校による普通科学科改編(熊本県立高森高等学校)/第二高校の変化」

熊本県立第二高等学校教頭 松野研介
③「『Change & Challenge』宮崎県立福島高等学校の取組」

宮崎県立福島高等学校教頭 水口和博
④「SSHでス(S)ゴクス(S)テキで本(H)格的な国分高校」

鹿児島県立国分高等学校教頭 堂薗幸夫
[各県取組報告]

テーマ『新教育課程への取組状況と課題』
福岡県立福岡高等学校 副校長 清輔 正孝
佐賀県立唐津特別支援学校副校長 坂本 明弘

長崎県立宇久高等学校	教頭 大久保明彦
熊本県立菊池高等学校	教頭 大塚 一幸
大分県立大分東高等学校	教頭 川野 伸久
宮崎県立日向高等学校	教頭 石川 展
沖縄県立嘉手納高等学校	教頭 知花 史尚
鹿児島県立松陽高校	教頭 岩切 義弘

九州各県代表者会議においては、来年度以降の開催日程及び大会参加の申込方法や「大会集録」のデータ化に関して積極的な議論がなされ、「研究実践発表」や「各県取組報告」に際しても多くの質問が飛び交い、時間が不足するほど中身の濃い質疑応答がなされました。主管県として開催準備に携わり、2日間にわたる研修の雰囲気を間近で感じながら改めて思ったことは、年1回の研修会が決して儀式的なものではなく、開催するべき意義のある貴重で重要な機会であるということです。

来年度、鹿児島県において開催される第47回全国高等学校総合文化祭「2023かごしま総文」や、特別国民体育大会、特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動 かごしま国体・かごしま大会」という大きなイベントを前に、本県の魅力を十分に味わっていただきたいという想いでも準備を進めてきたものの、本県には九州大会や全国大会に参加した経験のある教頭は少数で、過去の大会記録を参考にしながらの準備となり様々な方面に迷惑をおかけしました。

7月下旬以降、九州のほぼ全県において新型コロナ感染者が再び爆発的に増加したため大会当日まで決して不安が消えることはありませんでした。6月に開催された全国理事研究協議会の地区研究協議会の中での各県会長の大会開催に対する思いや各県会員の皆様の協力という後押しのおかげでなんとか開催することができました。コロナ禍にもかかわらず予想以上の参加を頂き、開催に関わったすべての方々に心から感謝申し上げます。

最後になりますが、来年度は第41回大会が福岡県で開催される予定です。新型コロナウイルス感染症が収束し、情報交換会も含めて4年ぶりのフルスペックの九州各県高等学校教頭・副校長研修会が盛大に開催されることを切に願っております。

(鹿児島県立甲南高等学校 教頭)

第3回全国理事研究協議会報告

事務局長 針馬 利行

第3回全国理事研究協議会を11月21日(月)に千代田区九段北のアルカディア市ヶ谷で開催した。新型コロナウイルス感染症の第8派が心配されたが、6月に引き続き対面で開催することができた。当日は、全国から役員・理事等91名が東京へ参集した。

会議は、総務部長の司会兼議長の下で行われ、3部構成の協議会として実施した。

会議1では、開会の辞に続いて、会長挨拶、本年度事業中間報告が行われた。

続いて、文部科学省高等教育局大学教育・入試課大学入試室長平野博紀氏による「大学入学者選抜をめぐる最新の動き」と題する約1時間の講話を頂戴した。

その後、会報第114号掲載用の集合写真を、本部役員等・北海道・東北、関東・北信越、東海・近畿、中国・四国・九州の4ブロックに分けて撮影した。

会議2は、本年度会計中間報告・監査報告を行い、次に、本年度全国大会主管県の石川県から、ハイブリッドで開催した全国大会の報告があった。Zoomでのブレイクアウトルームでの情報交換は大変有意義であった。参加者からのアンケートの結果が紹介されたが、全国大会で参加者のアンケートを取ったのは初めてであった。大会集録は11月末に発送した。

その後、来年度事業計画案ほか、来年度年間行事計画案が提示され、令和5年11月24日(金)に第3回全国理事研究協議会と併せて創立60周年記念式典と祝賀会を実施すると報告があった。研究部報告では、研究集録編集会議の結果、



本部役員等・北海道・東北地区の理事

8編の研究発表が研究集録に掲載されたとの報告があった。次に、岩手県高等学校副校長協議会による本年度特別調査「高等学校の特色化・魅力化の推進に向けた学校運営協議会等の組織体制や特徴的な取組状況及び管理運営・校務運営におけるICTの利活用について」のまとめが報告された。来年度の特別調査は高知県が担当し、テーマは「分校の在り方」を考えているとのこと。

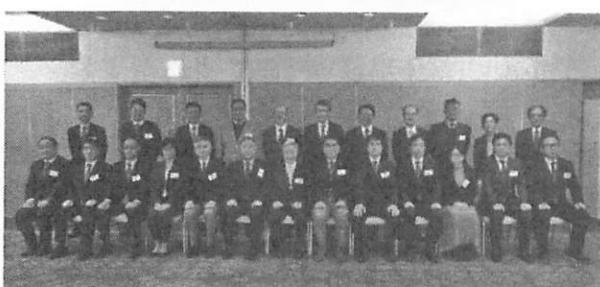
次に、来年度の全国大会主管県の愛知県より準備状況についての報告があり、大会開催要項、使用会場、講演講師、予算案等について説明があった。事務局より、3年間全国大会は集合開催になっていたが、来年度は集合開催を目指して準備していくとの補足説明があった。

その後、各地区研究協議会報告を、北海道、秋田県、茨城県、東京都、石川県、静岡県、大阪府、鳥取県、徳島県、鹿児島県の順に、研究部長、研究副部長等が行った。今年度は、集合開催4地区、ハイブリッド開催3地区、誌上開催2地区であった。事務局より、事務引継予告、60周年記念行事として刊行する「教頭のホンネ」「北から南から」への執筆依頼があった。その後、昨年度の全国大会主管県である沖縄県へ会長より感謝状と記念品が贈呈された。閉会の辞で会議は終了した。

その後、昨年度と同様、会食無しで各地区有志による情報交換会を実施した。66名が参加した。各地区・県の情報交換が活発に行われ、有意義な時間を過ごすことができた。最後に全国大会準備委員長の挨拶で終了した。



関東・北信越地区の理事



東海・近畿地区の理事



中国・四国・九州地区の理事

事務局だより

事務局長 針馬利行

○ この会報の発行に際してご多用の中原稿をお寄せいただいた先生方にお礼を申し上げます。今年は福田洋三会長と事務局で分担し4つの地区研究協議会に参加することができ、地区的先生方と交流を深めることができました。来年度こそは新型コロナウイルス感染症が終息して全ての地区へ参加できることを祈念しております。

○ 今年は3年ぶりに、6月の第1回理事研究協議会で文部科学省初等中等教育局視学官藤野敦先生から、8月の第2回理事研究協議会では金沢大学融合研究域教授堤敦朗先生から（これはオンラインでしたが）、11月の第3回理事研究協議会では文部科学省高等教育局大学教育・入試課大学入試室長平野博紀先生からのご講話・ご講演をいただきました。来年も実現できることを祈念いたします。

※これらの講話・講演は調査研究集第46号に掲載されます。

① 令和5年度行事日程

- 5/12(金) 全国監査・役員会 東京(事務局)
- 5/26(金) 全国総務部会① 東京
- 6/19(月) 全国理事会①・地区協議会
東京(アルカディア市ヶ谷)
- 7/7(金) 全国総務部会② 東京
- 7/26(水) 全国研究部会・理事会②愛知・刈谷
- 7/27(木) 全国大会 第1日 愛知・刈谷
- 7/28(金) 全国大会 第2日 "
- 10/10(火) 全国中間監査・役員会 東京
- 10/20(月) 全国総務部会③ 東京

11/24(金) 全国理事会③ 60周年記念式典
東京(アルカディア市ヶ谷)

② 全国大会について

- ・令和5年度 東海地区
主 管 愛知県高等学校教頭・副校長会
場 所 愛知県刈谷市総合文化センター
期 日 7月26日(水)～7月28日(金)

・令和6年度 近畿地区

- 主 管 滋賀県高等学校教頭・副校長会
場 所 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
期 日 7月31日(水)～8月2日(金)

③ 刊行物等

月刊高校教育(学事出版)に毎月「教頭・副校長会だより」と「教頭日誌」(教頭のホンネ)、「高校改革北から南から」を掲載しております。ご一読賜れば幸いです。

会報 第114号

発行日 令和5年1月31日

発行者 全国高等学校教頭・副校長会
(非売品)

編集人 針馬利行 発行人 福田洋三
〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-28
ナーベルお茶の水2階
電話 03-5840-6104
FAX 03-5840-6108
E-mail:info@zenko-kyotou.jp

印刷所 株式会社リヨーワ印刷
電話 03-6382-4667

第62回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会



名古屋城



有松・鳴海の古い町並み
写真提供 愛知県

- 1 目的 全国高等学校教頭・副校長の連携を図るとともに、高等学校教育の諸課題について研究協議を行い、時代の進展に即応する教頭・副校長としての資質の向上と高等学校教育の充実を図る。
- 2 主催 全国高等学校教頭・副校長会
- 3 主管 東海地区高等学校教頭・副校長会(主管 愛知県)
- 4 後援 文部科学省
愛知県教育委員会
全国高等学校長協会 愛知県高等学校長協会 等申請予定
- 5 期日 令和5年7月26日(水)～7月28日(金)
- 6 開催地 刈谷市 刈谷市総合文化センター及び刈谷市産業振興センター